

行事予定

2022年(令和4年)1月～4月

【特別展／企画展】

2021年10月26日(火)～2022年4月下旬

南島原市相互貸借特集展XVII

「島原・天草一揆を記す一硯と矢文―」

[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2021年11月8日(月)～2022年1月7日(金)

2021年度博物館実習成果展

「星に導かれた3人のマギー公現祭の起源を辿って―」

[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2021年11月29日(火)～2022年4月下旬

産官学連携サテライト展示XIX

「近世長崎の風景―西洋の眼差し、日本の眼差し―」

[場所] 南島原市原城図書館

2022年3月1日(火)～5月31日(火)

2021年度企画展II

[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

【休館】

毎週日曜日

12月21日(火)～22日(水)

12月25日(土)

12月28日(火)～2022年1月5日(水)

新型コロナウイルスの影響により、行事予定は日程、内容等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

編集後記

2021年もまもなく終わります。多くの展覧会計画が中止・延期になってしまった昨年とは違って、今年は1月から12月までずっと展覧会を開催し続けました。苦勞もそれなりでしたが、それ以上に充実した一年だったと個人的に総括しています。新型コロナウイルス感染症の流行は予断を許しません、来年も皆さんの展示企画を皆様にお届けできることを願っています。

博物館教員 下園 知弥

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室

URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇(8/10～8/16)、キリスト降誕祭[12/25]、

年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](https://www.facebook.com/seinamuseum) [@seinan_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

当時の生き生きとした生活が見えるようです。具体的な歩いて作った地図や刷り物、絵、工芸品など、当時の国の出入り口だからこそ活気、息遣いを感じられました。(2021年9月)

私はもともと長崎が好きで、この展示を見るのも楽しかったです。今日は授業の時刻までの暇潰しに来たのでゆっくり説明文を見るほどの時間がなかったのですが、展示物を眺めるだけでも、私たちが生まれるずっと前からこういう地図や絵などを描いた人々の人生があったんだなあとと思うと面白かったです。今度は友達も連れて来ようと思います。(2021年10月)

長崎が独自文化を華開かせていることが分かる素敵な展示でした。オランダはよく目にしますが、唐人文化まで触れているものは少なく、興味深かったです。当館にチラシを頂いたご縁でお伺いさせて頂きましたが、大変おもしろく拝見致しました。ありがとうございました。(2021年10月)



9月から11月にかけて開催された特別展「長崎口と和華蘭文化―異文化のさざ波―」には、九州だけでなく、遠方からも多数の方々にご来館いただきました。11月8日から開催の特別展「宣教師とキリシタン―靈性と聖像のかたちを辿って―」の会期も残りわずかです。スタッフ一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸研究員 迫田 ひなの

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
- 博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
- 天神 → 西新駅下車 → 約8分
- ※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前 → 約35分
- 天神 → 修猷館前 → 約20分
- ※修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 44 2021.12

西南学院大学

所蔵品紹介 特集

ラテン語聖書写本零葉

A Leaf from Latin Bible Manuscript

1250年頃／パリ(フランス)／羊皮紙に手彩 法量:15.0×10.0cm

本資料は、1250年頃に北フランスのパリで制作された聖書写本の断片です。非常に薄いヴェラム(仔牛等の動物の皮で作られた紙)に手書きのラテン語で旧約聖書『第2マカベア書』の一部が記されています。聖句本文には黒のインクが使用されていますが、タイトルと章番号、そして頭文字(イニシアル)は複数の色彩で装飾的に描かれています。何より目を引くのは、資料の小ささと文字の細かさであり、この特徴は13世紀という時代の文化を色濃く映し出しています。

13世紀という時代は、聖書写本にとって重要な革新が起こった時代でした。その革新とは、「聖書の小型化」です。従来、聖書のパンデクト(全内容を一冊にまとめたもの)は、素材とテキストの制約上、大型本として制作されるのが常でした。しかし1230年頃から、極薄のヴェラムが製作可能になり、さらに幅を極端に詰めたゴシック体の書体が発案されたことで、携帯可能な小型のパンデクト聖書が現れるようになりました。つまり、写本制作における「技術革新」がこの小型パンデクト聖書を実現したのです。

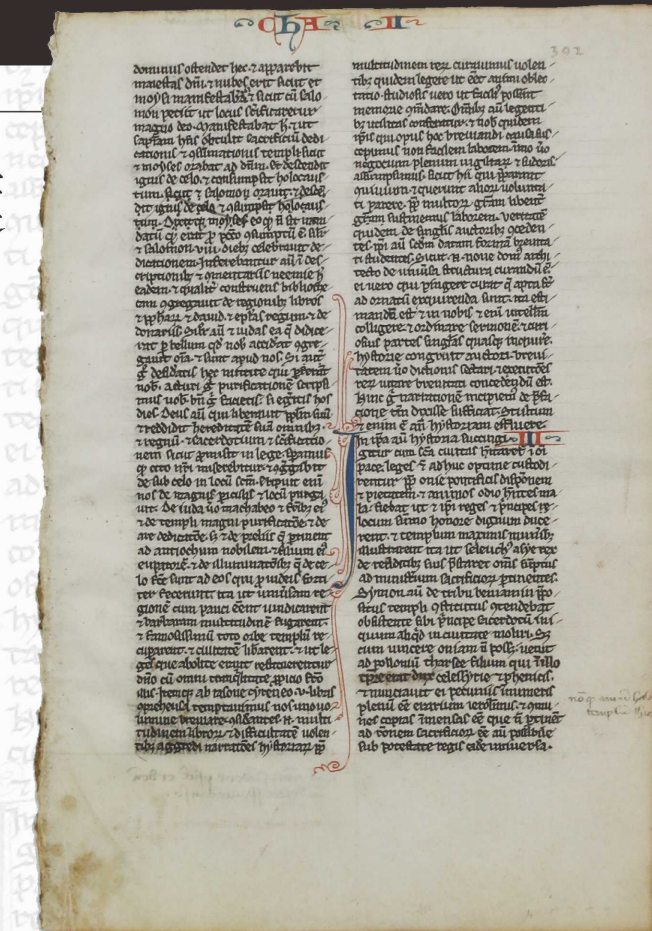
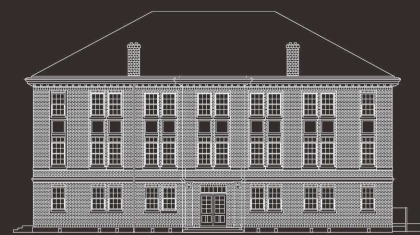
「必要は発明の母」と言うように、技術革新は必要性があってこそ果たされるものですが、この種の聖書を特に必要としていたのは大学の神学者たちでした。彼らの仕事や勉強には聖書の全体を通覧できるパンデクトが適しており、実際、ヨーロッパにおける大学の発展期と重なる1200年から1230年頃にかけてパンデクト聖書の制作数は増加しています。小型パンデクト聖書が登場するのはその直後です。つまり、より利便性の高いパンデクト聖書を求める神学者たちの需要に応えるかたちで、小型パンデクト聖書は世に現れ

所蔵品紹介 ラテン語聖書写本零葉

資料でみる西南学院の歴史⑧ 「西南学院百年史」

博物館通信 「長崎口と和華蘭文化―異文化のさざ波―」を開催 ほか

展覧会紹介 2021年度特別展II「宣教師とキリシタン―靈性と聖像のかたちを辿って―」ほか



たのだと考えられます。

本資料にはもう一つ、特筆すべき点があります。それは本資料が「パリ聖書」(The Paris Bible)の断片だと考えられる点です。パリ聖書とは、13世紀の北フランス、とりわけパリで制作されていた、新しい順番・内容で構成された聖書写本のことを指します。パリ聖書の制作は13世紀の第2四半期に始まったとされており、小型パンデクト聖書の登場時期と重なっています。実際、現存するパリ聖書写本の多くは小型パンデクト聖書であることが指摘されています。本資料もまた、断片であるため断言はできませんが、テキストや装飾の様式が現存するパリ聖書写本と酷似していることから、パリ聖書である可能性が高いと言えます。

博物館教員 下園 知弥

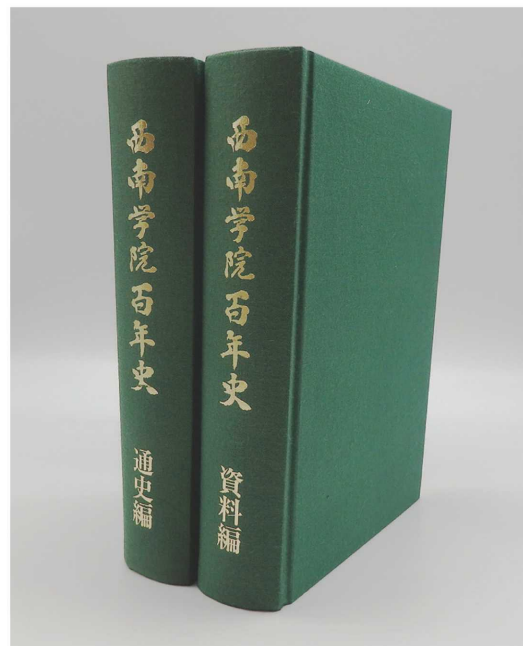


『西南学院百年史』

1916年に開校した西南学院は、5年前の2016年に創立100周年を迎えました。さらに、2019年には、創立100周年を記念して『西南学院百年史』が刊行されました。学院史編纂の必要性に関しては1930年代から議論があったものの、「学院史」として本格的に刊行されたのは、1986年の『西南学院七十年史』です。少人数で編纂された『七十年史』とは異なり、『百年史』には、延べ84名が携わって編纂されており、単に七十年史以後の歴史を叙述するのではなく、次の100年を歩む西南学院の課題と展望を見据えたものとなっています。

『百年史』は、「通史」「資料」編に分けて編纂されていますが、特徴的なのは、『七十年史』ではほとんど取り上げられなかった創立者C.K.ドージャーの日記や宣教師の書簡などの一次資料が取り上げられたことです。その多くは南部バプテスト連盟によって設置された南部バプテスト歴史図書館・アーカイブズ(The Southern Baptist Historical Library and Archives)に保管されています。これらが精査されたことによって、学院の戦時中の動向や、『七十年史』における誤りなどが明らかとなりました。さらに『百年史』は、書籍版だけでなく、学院史として初の試みであるDVD版が発行されています。刻々と変化する時代の中で、西南学院は次の50年、そして100年に向けて歴史を積み重ねてゆくのです。

学芸研究員 迫田 ひなの



『西南学院百年史』(通史編・資料編)
学校法人西南学院
西南学院百年史編纂委員会編(2019年)



博物館通信

2021年9月から11月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、2021年9月から11月にかけて、特別展「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」を開催しました。緊急事態宣言により一時は予約制となっておりましたが、会期後半は通常通りの開館となり、より多くの方にご来館いただくことができました。当館と同じ九州に関する展覧会ということで、親しみを感じたというお声を多数いただきました。

学芸調査員 勝野 みずほ

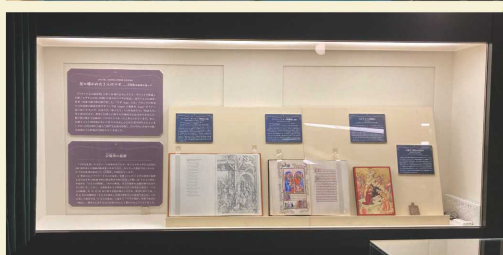
🏠 2021年9月1日(水)～11月4日(木)
2021年度特別展I「長崎口と和華蘭文化—異文化のさざ波—」を開催しました。

🏠 2021年10月26日(火)～2022年4月下旬
官学連携サテライト展示
令和3年度南島原市・西南学院大学博物館相互貸借展示
「島原・天草一揆を記す一視と矢文—」を開催中です。

🏠 2021年10月27日(水)～2022年3月
赤煉瓦通信特集展示「西南学院アート探訪」を開催中です。

🏠 2021年11月8日(月)～12月20日(月)
2021年度特別展II
「宣教師とキリシタン—靈性と聖像のかたちを辿って—」を開催中です。

🏠 2021年11月8日(月)～2022年1月7日(金)
2021年度博物館実習成果展
「星に導かれた3人のマギ—公現祭の起源を辿って—」を開催中です。



展覧会紹介

開催中

2021年度
西南学院大学博物館特別展II

宣教師とキリシタン

—靈性と聖像のかたちを辿って—

会期/2021年11月8日(月)～12月20日(月)
会場/西南学院大学博物館1階常設展示室・特別展示室
西南学院百年館(松緑館)1階企画展示室

主催/西南学院大学博物館

協力/長崎市 日本二十六聖人記念館 外海潜伏キリシタン文化資料館
平戸市生月町博物館・島の館 南島原市有馬キリシタン遺産記念館
上天草市天草四郎ミュージアム 九州大学附属図書館
西南学院大学図書館 西南学院史資料センター

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(「マルコによる福音書」16:15)。これは復活後に弟子たちの前に現れたイエス・キリストの言葉である。地中海世界で生まれたキリスト教は、中央アジアを経由して中国へと伝わり、やがて大航海時代を迎えると、ヨーロッパから多くの宣教師たちがアジアを目指して海を渡っていった。

16世紀、カトリック教会による世界宣教の中心に立ったイエズス会は、日本においてもカトリック神学の教育を実践し、

その靈性を伝えた。イエズス会の宣教活動において重要な役割を果たしたのがキリストや聖母子の聖像(聖像画)である。禁教下にキリシタンによって継承された聖像は一律ではなく、各地域に固有の信仰のかたちを豊かに映し出している。

本展覧会では、ヨーロッパの宣教師によって日本にもたらされたキリスト教の靈性と聖像のかたちを辿り、禁教の時代を経てこの地に息づく日本のキリスト教信仰を見つめる。



展覧会紹介

開催中

2021年度西南学院大学博物館実習成果展

星に導かれた3人のマギ

—公現祭の起源を辿って—

会期/2021年11月8日(月)～2022年1月7日(金)
会場/西南学院大学博物館1階常設展示室
主催/西南学院大学博物館実習生

本企画では、イエス・キリストの降誕物語の一端である「マギの礼拝」を主題とする資料を展示します。聖書によると、イエスが降誕した際に「ユダヤ人の王」を探しに東方からマギが来訪して、幼子イエスに黄金・乳香・没薬の贈り物を献げました。「マギ magi」とは、ペルシアの祭司や占星術師の階級を指すギリシア語“magos”の複数形“magoi”がラテン語に転じたもので、日本では「博士たち」「占星術者たち」「賢者たち」などと訳されます。聖書には具体的な記述はありませんが、贈り物の数から伝統的にマギは3人であったと考えられており、後世になるにつれて3人のマギにはそれぞれ名前や年齢、出身地などの個々の特徴が付随していききました。このエピソードは神の子イエス・キリストがユダヤ人以外の前に姿を表した最初の出来事とされており、カトリック教会では1月6日にマギの礼拝を記念して「公現祭」が祝われています。

